本書は本体後ろ側の収納部に保管してください。

COMBI　コンビ チャイルドシート

マキシコシチャイルド

取扱説明書

品質保証書付

ECE R 44/03
03301096

- お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解のうえ、記載された内容に従い正しくお使いください。
- 本書は、本体後ろ側の収納部に保管してください。（P 8参照）
- このチャイルドシートは、ヨーロッパ基準 ECE R44/03 を取得しています。

⚠ 本製品は前向き専用です。

お使いいただく前に

このたびは、コンビチャイルドシートをお買い上げいただき、ありがとうございました。ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

チャイルドシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守るものではありません。
またチャイルドシートを使用するときには、必ず保護者の方が同乗してください。

取り付けできない座席

下記以外の座席でも、チャイルドシートをしっかり固定できない場合には使用しないでください。

●シートベルトの付いていない座席。

●シートベルトが座席の中間から出ている座席。
…チャイルドシートのシートベルト通し穴の位置よりも、前方向からシートベルトが出ている座席。

●2点式シートベルトの座席。

●パッシブシートベルトの座席。
（オートマチックシートベルト）
…車の座席に座ってドアを閉めると、自動的にシートベルトを装着してくれる装置のこと。とくに輸入車に多くみられます。

●エアバッグ装備の座席。

…サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

お使いいただけるお子さまの条件

次の条件をすべて満たすお子さまにお使いいただけます。

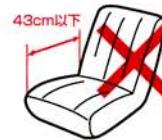
●体重：9kg以上～18kg以下のお子さま。
（参考年齢…1才頃～4才頃）

●身長：チャイルドシートに座らせ、後頭部が背もたれから上に出ないお子さま。

次の条件のいずれか1つでもあてはまる場合は、その座席ではお使いいただけません。

●進行方向に対して横向き、または後向きの座席。

●座席の凸凹が極端で、不安定になる座席。

●座席の奥行きが43cm未満の場合。

●極端なバケットシート。

…座面の中央が深くへこんでいる座席。

●シートベルトの取り付け幅※が40cm未満の場合。
※シートベルトが座席の端にあたっているところから、バックルの付け根までの長さ。

チャイルドシートは前座席・後座席ともに取り付けられますが、より安全な後座席への取り付けをおすすめいたします。

安全にお使いいただくために

「危険」、「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の、切迫度や大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
⚠ 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
⚠ 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が起こる可能性があります。

⚠ 危険

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能をはたさず、危険をまねくおそれがあります

●使用条件に適合しないお子さま・座席などでは、使用しないでください。

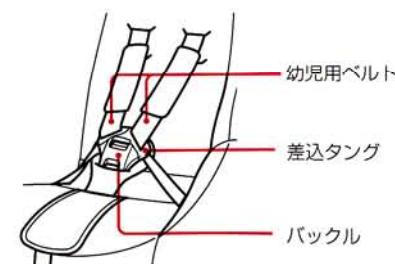
●車に取り付けるときは、必ず車のシートベルトで固定してください。
ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。

●エアバッグが装着された座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
…サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

●車のシートベルトおよび座席の種類などにより、取扱説明書どおりにチャイルドシートをしっかり固定できないときは、他の座席に取り付けてください。

●お子さまがチャイルドシートの上に立ったり、中腰になったり、正座をしないように注意してください。

●前向きで使用（後ろ向きでは、絶対に使用しないでください）

座らせたときには、お子さまに幼児用ベルトが正しく装着され、左右の差込タングがしっかりバックルに差し込まれていることを確認してください。

⚠ 警告

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能をはたさず、危険をまねくおそれがあります

●幼児用ベルトがたるんだ状態で使用しないでください。ベルトが首に巻き付き、窒息するおそれがあります。
• 幼児用ベルトは乗車ごとに正しい長さに調節してください。（16ページ参照）

●衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも強い衝撃を受けたチャイルドシートは、外見上の破損がなくても、絶対に使用しないでください。

●幼児用ベルトに傷が付いたときは、ご使用にならないでください。修理の必要がありますので、弊社のお客様相談室にお問い合わせください。

●お子さまがバックルボタンを押してしまう可能性があります。ときどき、差込タングがバックルからはずれていないことを確認してください。
はずれていると本来のはたらきをせず、さらにベルトが首に巻き付くおそれもあります。

●車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けないでください。

●お子さまを車内に1人で放置しないでください。
日ざしの強い日などには、車内の温度も高くなり、お子さまが脱水症状になるおそれがあります。また予期せぬ事故の原因となります。必ず保護者の方が同乗してください。

次のような使いかたは、同乗している方に危険をまねくおそれがあります

●お子さまがチャイルドシートに乗っていないときでも、必ずシートベルトで固定しておいてください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります。

●シフトレバーやパーキングブレーキなどの運転操作に支障をきたす場合は、助手席に取り付けないでください。

●2ドアや3ドアの車で後座席に人が乗る場合は、チャイルドシートを助手席に取り付けないでください。緊急時の脱出の妨げになります。

⚠ 注意

●チャイルドシートに直接日光が当たると、本体や差込タングなどが熱くなり、お子さまがやけどをするおそれがあります。お子さまを座らせる前に各部にさわり、やけどをしないことを確認してから使用してください。またお子さまを座らせていないときも、差込タングをバックルに差し込んでください。

●走行中は、チャイルドシートの操作や調節をしないでください。また、同乗している他のお子さまがチャイルドシートに触らないようにしてください。

●チャイルドシートを通常の椅子として使用すると、転倒してけがの原因となります。この取扱説明書に記載されている使いかたで使用してください。

●チャイルドシートを改造しないでください。また、本書に記載されていない取り扱いをしないでください。

●車の座席にクッションや座布団などを敷いたまま、チャイルドシートを取り付けないでください。チャイルドシートがしっかり固定されません。

●固定されていない物を車内に放置しないでください。（急ブレーキや衝突の際にお子さまなどに当たる可能性があり危険です）

●チャイルドシートを風雨にさらさないでください。

●シートクッションなどの縫製品や、ウレタン等のクッション材をはずしたまま使用しないでください。また、本製品以外の物と取り換えたりしないでください。（衝突時の安全性能に影響を与えるおそれがあります）

●本製品を車の座席可動部やドアなどにはさまないように十分注意してください。

⚠ 日常の点検

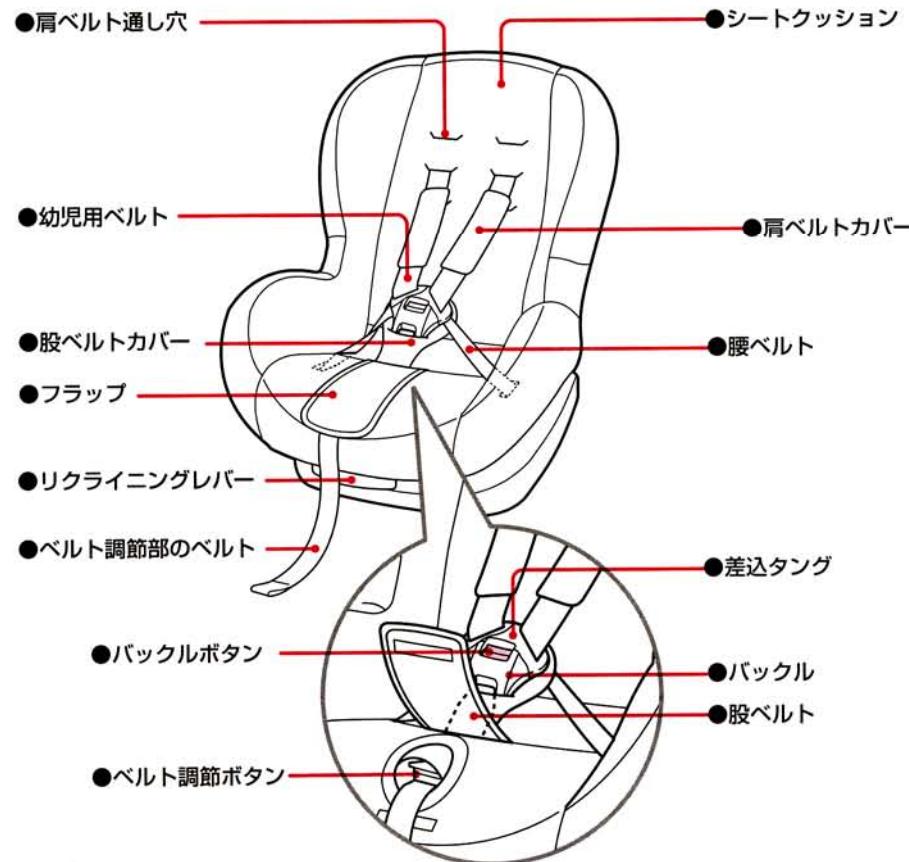
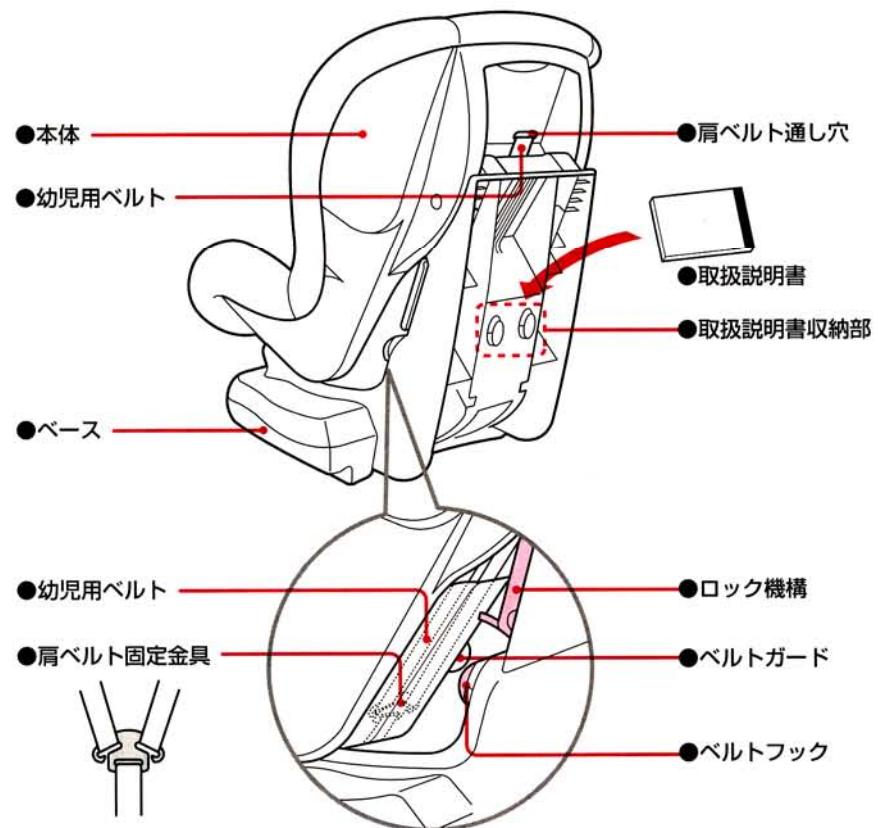
チャイルドシートの本来の機能を果たすため、走行前には、次の事項を点検してください。

⚠ 緊急時の脱出

事故など緊急時は、保護者の方がバックルボタン（赤色）を押し、幼児用ベルトをはずして、お子さまを車外に脱出させてください。

各部のなまえ

ご使用前に、各部品がそろっていることをご確認ください。

正 面

背面・側面

車に取り付ける前に

ここでは、取り付けの向きと正しい座らせかたを説明しています。またお子さまの体に合わせてチャイルドシートの幼児用ベルトの長さ、肩ベルトの位置などを調節してください。

チャイルドシートを固定する前に、お子さまを座らせ、P10~P17までの内容を確認してください。

体重 9kg以上~18kg以下 まで(1才頃~4才頃まで)

- 前向きで使用(後向きでは、絶対に使用しないでください)
- リクライニング4段階使用可(取り付け後、リクライニング 操作をして少しでもぐらつく場合は、「座席への取り付けかた」手順5、6(21ページ)を参照してシートベルトを締め直してください)

この取扱説明書では、チャイルドシートの幼児用ベルトをお子さまが接している部分により、肩ベルトと腰ベルトとに分けて説明しています。

⚠ 警告

- お子さまを座らせるときには、右図のような座りかたをさせないでください。チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

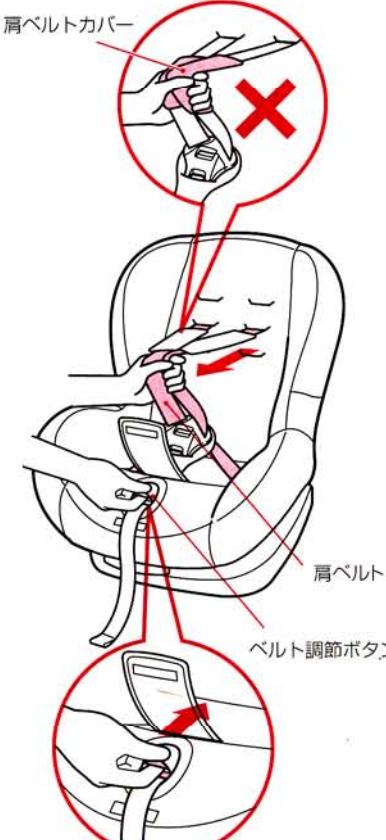
車に取り付ける前に

お子さまの座らせかた

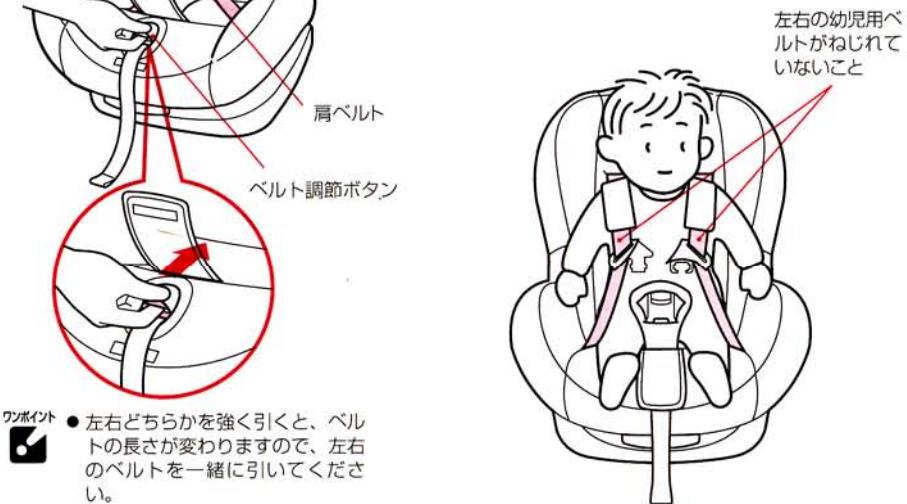
取り付け前に、お子さまを座らせ、使用するベルト通し穴の位置をお子さまの体に合わせてください。

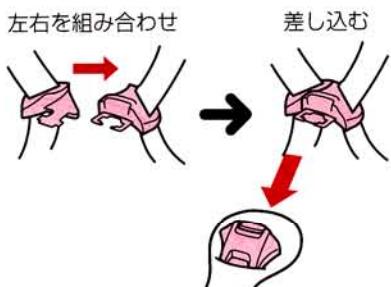
1 ベルト調節ボタンを押しながら、左右の肩ベルトを手前に引き、ゆるめます。(16ページ参照)

ワンポイント
- 肩ベルトカバーを引っぱらないでください。肩ベルトカバーを引き出すことはできません。

ワンポイント
- 左右どちらかを強く引くと、ベルトの長さが変わりますので、左右のベルトを一緒に引いてください。

2 バックルボタンを押して差込タングを抜きます。

3 お子さまを座らせ、左右の腕を肩ベルトに通します。

左右の幼児用ベルトがねじれていないこと

車に取り付ける前に

4 左右の差込タングを組み合わせてから『カチッ』と音がするまで、差込タングをバックルに差し込みます。

ワンポイント
● お子さまを座らせていないときも、差込タングをバックルに差し込んでおいてください。

右側の差込タングだけを差し込んで、『カチッ』と音がしたときは

差込タングがはずれてもロックされた状態で、差し込めなくなります。
バックルボタンを押してロックを解除してから、再度左右の差込タングを合わせて正しく差し込んでください。

5 ベルト調節部のベルトを手前に引き、左右の肩ベルトがお子さまの体にフィットするように調節します。（16ページ参照）

ワンポイント
● お子さまが窮屈でないように、また肩ベルトがたるんだり、ゆるまないように調節してください。

⚠ 警告
● 左右の差込タングが、完全にバックルに差し込まれていないと、衝突時に子供が飛び出したり、ベルトが首に巻き付き、窒息するなどのおそれがあります。

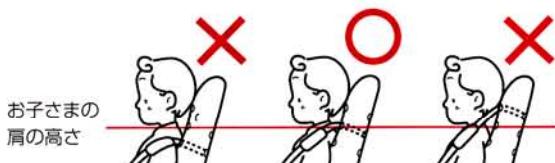
肩ベルト通し穴位置の決めかた

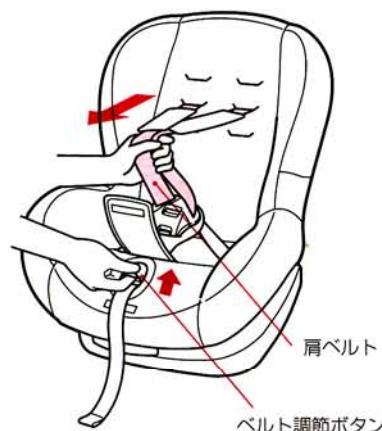
お子さまを座らせたとき、お子さまの肩の高さよりも、肩ベルトが下にある場合は、お子さまの肩のすぐ上になるように幼児用ベルト上端の肩ベルト通し穴の位置を変えてください。（工場出荷時は一番下になっています）

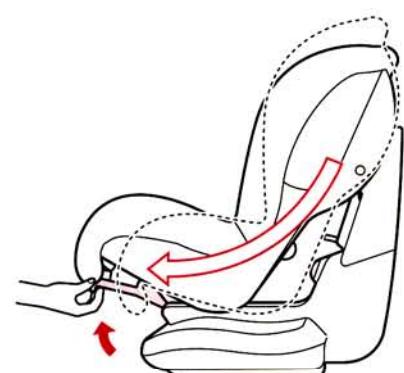
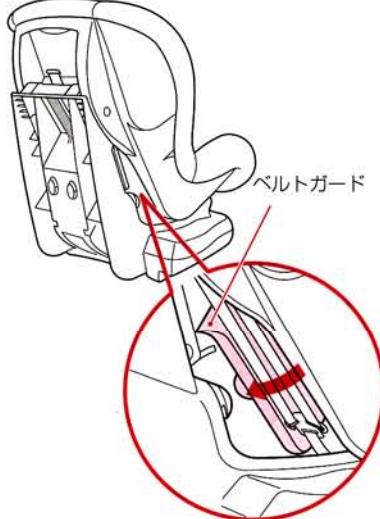
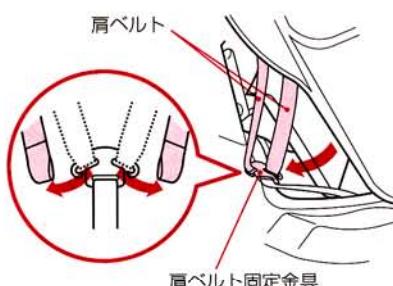
肩ベルト通し穴の高さの目安

幼児用ベルトは、着座したお子さまのすぐ上の肩ベルト通し穴に通してください。

× ○ ×

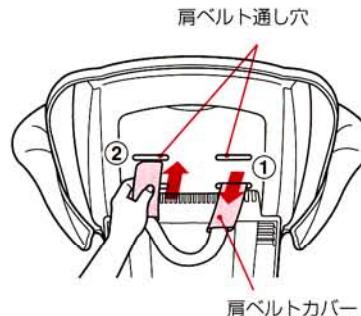
お子さまの肩の高さ

⚠ 警告
● 肩ベルト通し穴の位置がお子さまの体に合っていないと、衝撃が加わったときに幼児用ベルトが肩からはずれ、お子さまを正しく保持できません。
● 肩ベルト通し穴は、左右同じ高さの穴を使用してください。

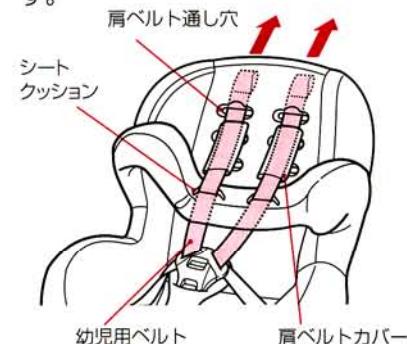
1 ベルト調節ボタンを押しながら、左右の肩ベルトを手前に引き、ゆるめます。

2 リクライニングレバーを握り、リクライニング角度を最も倒れた位置にします。

車に取り付ける前に

3 ベルトガードを開けます。

4 ベルトガードの中から幼児用ベルトに付いている肩ベルト固定金具を引き出し、肩ベルトをはずします。

ワンポイント
- 肩ベルト固定金具がベース内部に引き込まれないよう、肩ベルトをはずした状態で、ベルト調節部のベルトを引っ張らないでください。シートクッションのお手入れなどでシートクッションをはずしている間は、肩ベルト固定金具に肩ベルトを取り付けておいてください。

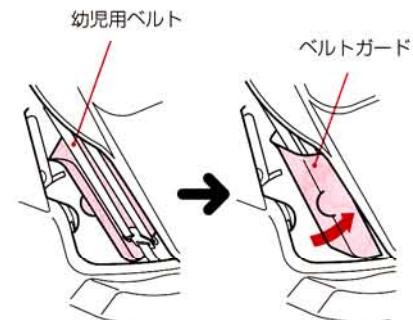
5 肩ベルトカバーから、幼児用ベルトを引き抜きます。

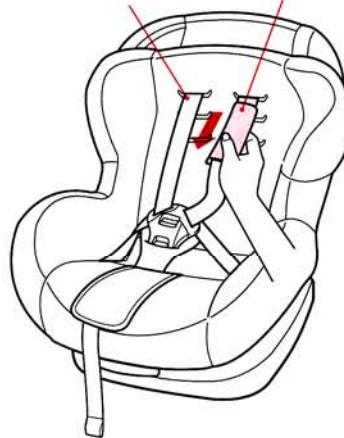
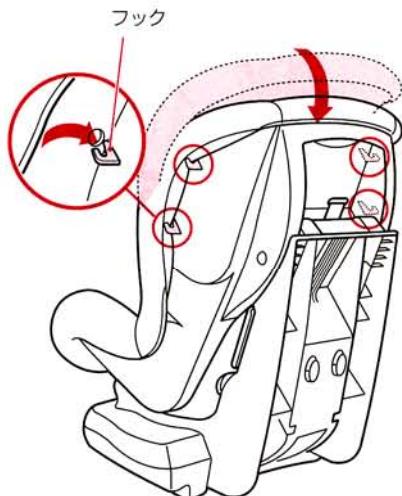
6 背もたれ両端のフック4カ所をはずして、シートクッションの上部を取りはずします。

7 本体から肩ベルトカバーを引き抜き、背面からお子さまの体に合った肩ベルト通し穴に入れ直します。

ワンポイント
- 上から1段目または2段目の肩ベルト通し穴に幼児用ベルトを通すときはリクライニングを立ててください。また一番下の穴に通すときはリクライニングを倒してください。

8 左右の幼児用ベルトを、シートクッション、肩ベルトカバー、本体の肩ベルト通し穴の順に通します。

⚠注意
- 幼児用ベルトは、必ず肩ベルトカバーと同じ高さの肩ベルト通し穴に通してください。

9 赤い糸で縫いつけてあるベルト面がチャイルドシートの本体側になるように、肩ベルト固定金具に左右の幼児用ベルトを取り付けます。

10 幼児用ベルトにねじれがないことを確かめて、ベルトガードを閉めます。

車に取り付ける前に

11 肩ベルトカバーを、シートクッション表面に引き出します。

12 本体にシートクッション上部をかぶせ、フック4カ所をかけ直します。

幼児用ベルトの長さ調節のしかた

お子さまを座らせて、幼児用ベルトがフィットするように長さを調節します。左右どちらかのベルトを強く引くと、左右のベルトの長さが変わりますので、左右の幼児用ベルトの長さが同じになるように調節してください。

⚠警告
- 必ずベルトの長さを調節してください。お子さまの体にフィットしていないと、衝突時にお子さまが飛び出したりするおそれがあります。
- 幼児用ベルトをたるませて使用すると、ベルトが首に巻きつき窒息するおそれがあります。

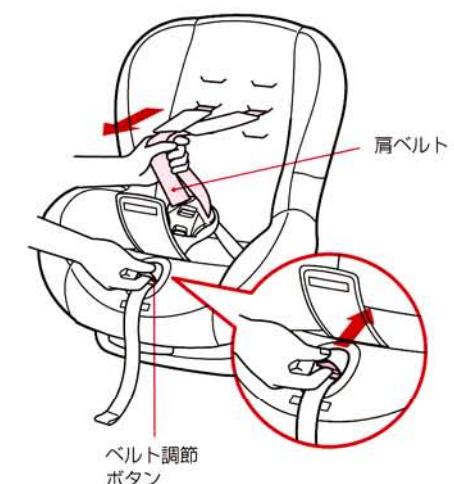
ワンポイント

- お子さまと肩ベルトの間に、大人の手のひらが入るくらいが適切です。きつかったり、ゆるかったりするときには、幼児用ベルトの長さを調節してください。

幼児用ベルトを短くするには（お子さまを乗せ終わったら）

ベルト調節部のベルトを引きます。

幼児用ベルトを長くするには（お子さまをおろすときは）

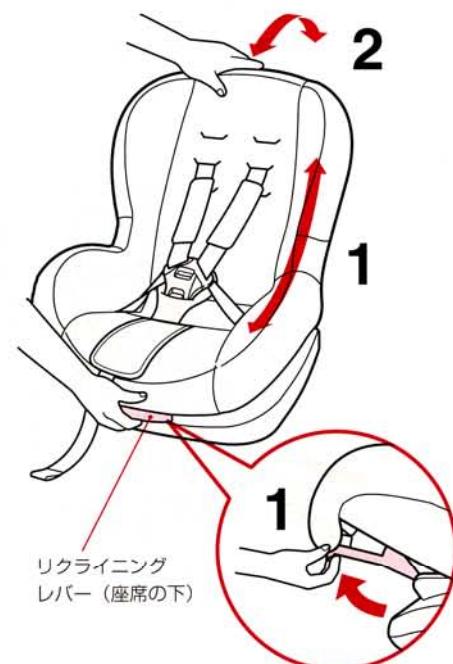
カバーの下のベルト調節ボタンを押しながら、肩ベルトを手前に引きます。

リクライニングの使いかた

⚠注意
- リクライニング操作は、必ず車を停車させてから行ってください。

車に取り付けた後、リクライニング操作してチャイルドシートが少しでもぐらつく場合は、「座席への取り付けかた」手順5、6（21ページ）を参照して、シートベルトを締め直してください。

ワンポイント
- 取り付け後、リクライニングしづらい場合は、車の背もたれを1～2段リクライニングさせてから操作してください。リクライニング後、車の背もたれをチャイルドシートに接するように再度起こしてください。
- 車の座席がリクライニングできない場合や座席の形状によっては、チャイルドシートのリクライニングが使用できないことがあります。

1 チャイルドシートの座席の下にあるリクライニングレバーを握り、リクライニング角度を調節します。（4 段階）

2 レバーから手を離して本体を前後にゆすり、しっかりロックされた状態であることを確認してください。

車の座席への取り付けかた

ここでは、シートベルトの種類と取り付け上のご注意と、取り付けかたを説明しています。

※車の座席の形状などにより、取り付けできない場合があります。詳しくは1～2ページを参照してください。

⚠危険
- 3点式シートベルトが装備されている座席に取り付けてください。2点式シートベルトの座席には、使用しないでください。
- チャイルドシートがしっかりと固定できない場合は、本来の機能を果たさず大変危険ですので、他の座席に取り付けてください。
- 車への取り付けは、ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。
- エアバッグが装着された座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
  ※サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

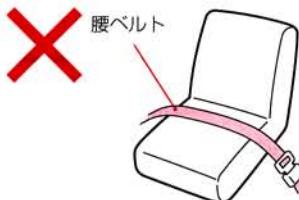
⚠警告
- 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けないでください。
- お子さまが乗っていないときでも、チャイルドシートは必ずシートベルトで常に固定しておいてください。
- シフトノブやサイドブレーキなど、運転に支障をきたす場合は、助手席に取り付けないでください。
- 2ドア・3ドア車で後座席に人が乗る場合、緊急時の脱出の妨げになりますので助手席にチャイルドシートを取り付けないでください。

シートベルトの種類と取り付け上の注意点

チャイルドシートは、シートベルトの種類によって取り付けかたが異なったり、取り付けられない場合があります。

⚠危険
- 必ず3点式シートベルトの座席に取り付けてください。
- 2点式シートベルトの座席では絶対に使用しないでください。本来の機能を果たさず、大変危険です。

2点式シートベルトとは

図のように、左右の腰ベルトの2点で体を支えるシートベルトのこと。

3点式シートベルトとは

図のように、腰ベルト左右と肩ベルトの3点で体を支えるシートベルトのこと。

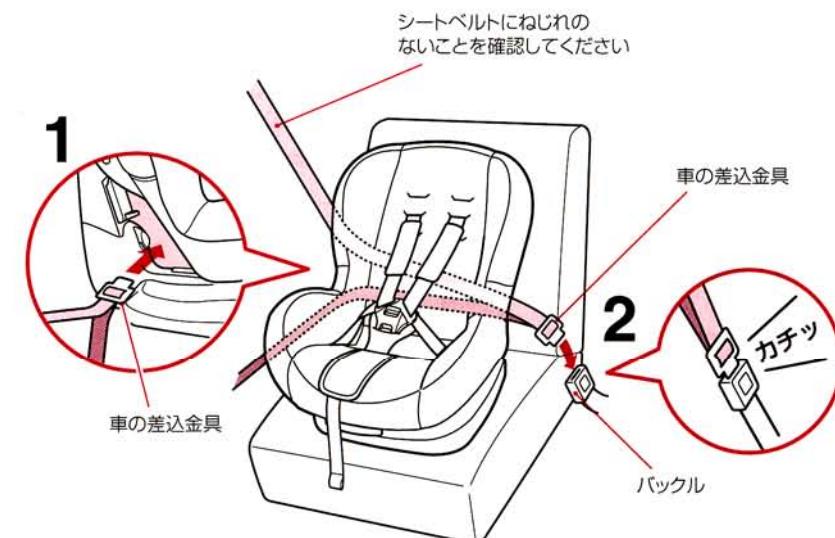
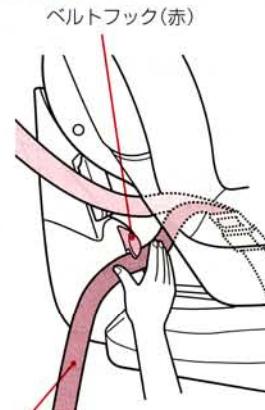
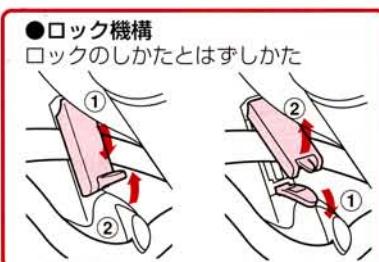
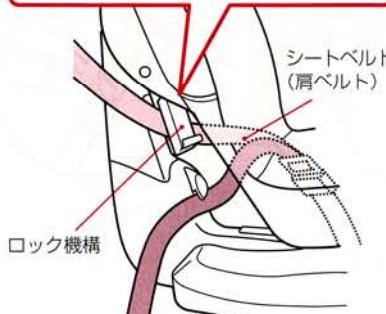
車のシートベルトの種類（シートベルトの方式）	特徴（見分けかた）	取り付け時の注意点
ELR付きシートベルト（緊急ロック式ベルト巻き取り装置付き）	ゆっくり引くと自由に出入りし、勢いよく引くとロックする。	ロック機構で固定してください。
チャイルドシート固定機能付きベルト（AELR付きシートベルト）	ベルトを全て引き出した後で巻き戻すと自動的に締まり、それ以上伸びなくなる。（ベルトを全て巻き戻すと解除される）	シートベルトを全て引きだしたあとベルトを戻し、チャイルドシート固定機能をきかせた状態にして、ロック機構で固定してください。
マニュアル式シートベルト	巻き取り装置の付いていないシートベルト。	チャイルドシートに合わせてベルトの長さを調節し、ロック機構で固定してください。
ALR付きシートベルト	ベルトを引き出す途中で止めるとロックされ、それ以上引き出せなくなる。	
NLR付きシートベルト	ロック機能のない巻き取り装置付きシートベルト。	

座席への取り付けかた

準備

①このチャイルドシートは、前向きに取り付けます。
②チャイルドシートのリクライニングを、最も倒した状態にします。（「リクライニングの使いかた」17ページをご覧ください）
③チャイルドシートの底面と背面を、車の座席にしっかりつけて、置いてください。

1 車のシートベルトを本体とベースの間に通し、反対側から引き出します。

2 差込金具をバックルに差し込みます。

3 シートベルト(腰ベルト)を、ベルトフック(赤)の下に通します。

4 シートベルト(肩ベルト)を、バックルと反対側のロック機構にはさみます。

5 チャイルドシートに体重をかけ、シートベルト(肩ベルト)をななめ上方向に数回強く引きます。

6 最後に「取り付け時の完了チェック」(22ページ)をお読みになり、しっかり固定しているかを確認してください。

取り付け時の完了チェック

取り付けが終わったら、チャイルドシートがしっかり固定されているか、次のことを確認してください。

①車のシートベルトの差込金具が、しっかりバックルに差し込まれていること。

②車のシートベルトにねじれやたるみがないこと。

③車の背もたれとチャイルドシートの本体との間に、手のひらが入るようなすきまがないこと。
またベースを前後左右にゆすって、約3cm以上動かないことを確認してください。

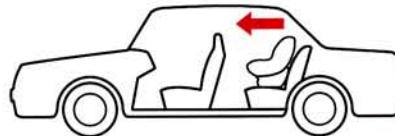
④お子さまが座っていても、車のシートベルトにゆるみのないこと。
※お子さまが座ると車の座席のクッションが沈み、シートベルトがゆるむことがあります。

⑤差込タングがしっかりバックルに差し込まれていること。

⚠警告
- これらの項目をチェックし、しっかり固定できない場合は再調節してください。それでもしっかり固定できない場合は、他の座席に取り付けてください。本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

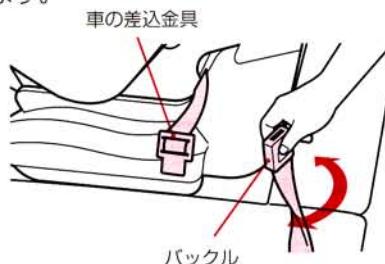
こんなときには

スライドできる座席に取り付けた場合には（チャイルドシートを、より確実に固定する）

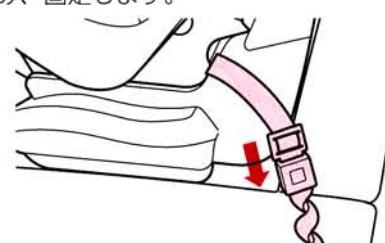
取り付け手順終了後、座席を前にスライドさせてください。より確実に固定できます。

⚠警告
- エアバッグが装着された座席では使用しないでください。エアバッグの作動による衝撃で、危険な状況になります。（装備されているのがサイドエアバッグのみの場合には使用できます）

バックルの位置によって、しっかり固定できない場合には

短ベルト(バックルのついている車のシートベルト)がベースの角に当たり、しっかり固定できない場合は、次のように対応してください。

1 差込金具をはずしてバックルを持ち、短ベルトに1～3回ひねりを加えて短くします。

※1～3回ひねりを加えてもシートベルト通し穴の角に当たる場合は、当社専用のフィットマット(別売)をご使用ください。

⚠警告
- ひねりを加えたり、フィットマット(別売)を使用してもしっかり取り付けできない場合は、使用しないでください。本体の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

2 もう1度、差込金具をバックルに差し込み、固定します。

お手入れのしかた

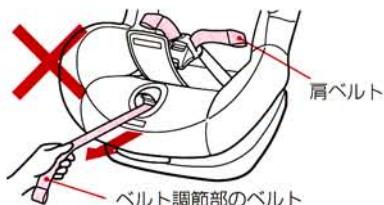
シートクッションのはずしかた（車からおろしてはずしてください）

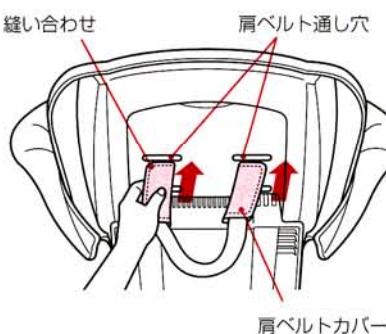
1 幼児用ベルトを前面に引き抜きます。(詳しくは「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」手順1～5(12～13ページ)をご覧ください)

2 バックルから、股ベルトカバーをはずします。

- 肩ベルト固定金具がベース内部に引き込まれないよう、肩ベルトをはずした状態で、ベルト調節部のベルトを引っ張らないでください。

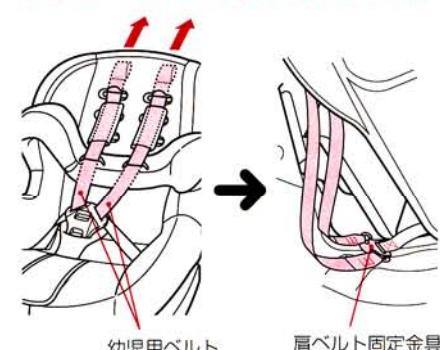
3 シートクッションのフック8カ所をはずします。(背もたれの両端4カ所、ひじかけの裏側2カ所、リクライニングレバーの両側2カ所)

4 シートクッションから、幼児用ベルト、ベルト調節部のベルト、バックル、肩ベルトカバーを引き抜きます。(肩ベルトカバーのはずしかたについて詳しくは、「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」手順7(14ページ)をご覧ください)

シートクッションの取り付けかた

1 肩ベルトカバーの縫い合わせ側が外になるようにし、お子さまにラバー面が接する向きにして、本体の背面から肩ベルト通し穴に通します。

2 シートクッションを本体にかけ、左右の幼児用ベルトと肩ベルトカバー、ベルト調節部のベルト、バックルを表側に引き出します。

3 シートクッションのフック4カ所をとめます。(ひじかけの裏側2カ所、リクライニングレバーのわき2カ所)

4 股ベルトカバーをバックルに取り付けます。

5 幼児用ベルトを裏面から引き出し、肩ベルト固定金具に取り付けます。(詳しくは「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」手順7～12(14～15ページ)をご覧ください)

6 シートクッションのフック4カ所をとめます。(背もたれの両端)

シートクッション、肩ベルトカバー、股ベルトカバーの洗いかた

洗濯時は、次のことを守ってください。

手洗い 30	液温は30℃を限界とし手洗いしてください。		塩素系漂白剤は使用しないでください。
	アイロン掛けはしないでください。		ドライクリーニングはしないでください。
	手絞りの場合は弱く、洗濯機脱水の場合は短時間で行ってください。強く絞ると、シワが残ることがあります。		日陰で平干してください。

※蛍光増白剤を含まない洗剤を使用してください。

本体、幼児用ベルトのお手入れ

通常はかたく絞った布で水拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水拭きし、日陰で乾燥させてください。

警告
- 中性洗剤を原液で使用したり、ガソリン、ベンジンなど有機溶剤の使用はおやめください。本体および幼児用ベルトをいためるおそれがあり危険です。

保管のしかた

●取扱説明書

取扱説明書(本書)は、よくお読みのうえ、本体後ろ側の収納部に保管してください。

●本体

長期間使用しないときは、車から降ろし風通しが良く、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

製品仕様

商品サイズ：

単位：mm

商品重量　：6.9kg

材　質　：本体…ポリプロピレン
シートクッション
表生地…ポリエステル
クッション材…ウレタンフォーム